



動物の塵が土の上を歩いたり、走ったりすると塵がたちあがるのです。面白いですね漢字は、字引をひきますと六塵とゆう漢字に出会いいます。

六塵とは六根（眼、耳、鼻、舌、身、意）に触れて心を汚す六種のものとあります。次に、六種をしらべてみますと（色、声、香、味、触、法）ここで、法とは悪巧みのことです。スゴイですね、塵は十億分の一の細かさですが、それでも心を乱しますよ。爽快至極（SOARING）、素晴らしいヒトにいるには色、声、香、味、触、法、RING）、素晴らしいヒトになが微塵もあつてはいけないと考

私は沖縄キリスト教短期大学の学生諸君が好きです。カガクものもっている学生だから、諸君の将来に大きな期待をよぶものです。

という言葉を実感せられた。  
しかし、そのバンコクの中でさえも、貧富の差というものを見ざと見ることができる。



# 東南アジア 研修旅行を終えて

大学に入学できたことは、ハイ・ウェイに入ったことです。将来を約束してくれる学問へのスピーチをあげてみませんか？希望を高くもつことはソワリングです。よ！

えた中国のヒト。  
八、むすび  
毎日、私は New Campus の工事をみています。とてもキビキビと作業が進んでいくのは気持ちがよいものです。新しいキャンパスに木を植えましょう。  
いまは殆ど木らしい木はありません。新しい校舎を温かく緑で包みましょう！  
新しいキャンパスに移りまし  
たら、新入生のオリエンテイショ  
ンのプログラムの中に、この沖  
縄キリスト教短期大学発祥の地、  
首里教会を訪れることと首里当  
蔵町の現在の校舎跡に建つと信  
じてます「記念碑」を訪ねる  
ことを提案したいもの。

東南アジア  
研修旅行を終えて

一、はじめに  
仲里朝章先生から沖縄キリスト教学院短期大学設立のお話を承り、設立委員の一人にとせ  
誘いを戴きました。月日がたちました。このたび『学報』に執筆の依頼をいたば  
き、まことに光栄に思いました。

も、まことに光榮

## 一、はじめに



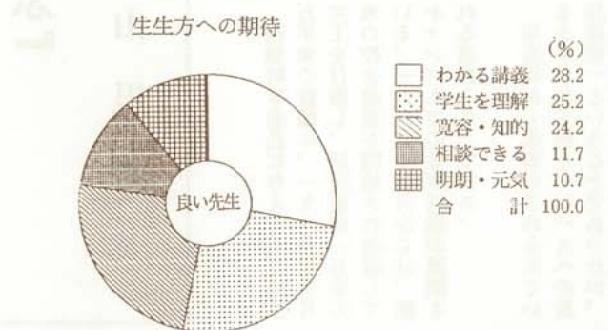
## 講義こぼれ話

# 非常勤講師（科学概論担当） 比嘉良夫

ヨーロッパに留学した方、中国  
アメリカで勉強していく人々  
の方々、国内や海外でご活躍の  
卒業生を思いますとき、この大  
学は仲里朝章先生が掲げられた  
キリスト教の精神を身につけら  
れた方々が育ち21世紀の國の指  
導者になつていく姿がたのもし  
く感ぜられます。

現在、沖縄キリスト教短期大  
学の学生諸君は、同世代のどこ  
の国の学生にくらべてもよろこ  
んで威張れるほど立派な学生で  
す。毎学期、この優れた学生諸君  
君に講義できることは嬉しいこと  
とであり、学力の進歩は目をみ  
はるものがあります。

良い先生のイメージ	パーセント
わかりやすい講義をする先生	28.2%
学生をよく理解してくれる先生	25.2%
寛容で知的な先生	24.2%
学生との COMMUNICATION	
を大切にしてくれる先生	11.7%
明かるく元気な先生	10.7%



中国に貴人とゆう言葉があります。あなたに最初のチャンスを与えたいヒトのことです。困っているときに温かく手をさしのべてくれたヒトです。こ両親様であり、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生、そしてこの大学の先生であり、お友達なのです。勿論このほかにスポーツや教会でお世話になった方々もいるのです。ことをも忘れないでください。この方々は貴方の将来の可能性を信じて、親切と先見の明をもって「温かい手」をさしのべて下さったのですから……これらの24時間のうち5分間でも甲斐だして心のなかで（ありがとう／＼）と感謝の言葉をつぶやきましょう。この学校ができるまことに、国際ワーク・キャンプを実際に多くのハツラツとした学生たちが、たくしにとりまして大切なヒト諸君が馳せ参じてキャンプを楽しむものにして下さいました。た。このキャンパーたちは、わ

五、SOARING  
『たてまえに拘（コダワ）る  
ことは想像力のないヒトが最後  
に逃げ込むところです』とオス  
カー・ワイルドがのべています。  
(Consistency is the last  
refuge of unimaginative.)  
与えられました自分の能力を使  
いきれないでいることは、最大  
の無駄です。トライしてみましょ  
う。毎日10分でも時間をさいて、  
将来を考え両親とディスカッショ  
ンをしませう。尊敬する先生

から四十キロのところにあり、雨季を除いて戦争を告げる大砲の音がよく聞こえるという。その職業訓練センターには、自動車整備を指導している林さんがおられた。びっくりしたことに、八歳の子供までが報酬をもらいながら、そのセンターで技術を学んでいた。林さんは「説明しても基礎的な学力がないためそれ以前のことから教えなければならぬので時間もかかる」と言われる。そういった苦しい生活の中で精神的な面ですいぶん悩んだようだ。しかし、「現地の人達と同じ境遇に身を置いて彼らに手助けすることに情熱を燃やすことができるのも、自分自身彼らからすい分いろんなことを学んでいるからだ。」そうおっしゃる林さんは、本当にまぶしく見え私は尊敬の思いでいっぱいだった。しかし、林さんが一生懸命サケオを開発しているとなりのカンボジアでは、破壊が続いていると、開発と破壊の隣り合わせがどうも納得できなかつた。



